

京都府支部の誕生、発展、そして現在

¹⁾ 京都府支部長 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻医療検査展開学講座
²⁾ 元支部検査士会長 元事務局長 株式会社 JCR
³⁾ 元支部長 元京都市立看護短期大学学長
⁴⁾ 前支部長 (財) ルイ・バストゥール医学研究センター

中泉明彦¹⁾、中山啓三²⁾
 小畑 義³⁾、土橋康成⁴⁾

支部の歴史に詳しい中山啓三元支部検査士会長に前半を、後半を長年にわたり支部長をされた土橋康成 前支部長に執筆をお願いした。

日本臨床細胞学会京都府支部誕生へのあゆみは昭和58年7月3日に発足した京都府支部設立第1回準備委員会に遡ることができる。当時、故安田迪之、平井 博、故木村和郎、故松尾美材、小畑 義、故伊藤元彦、故吉村誠之、木村順治、衣笠松男、中山啓三の10名が設立発起人となり、故水野潤二先生を名誉顧問にお迎えし、故安田迪之先生が初代支部長に、そして中山啓三が庶務会計を担当して支部を発足させることとした。そして翌年、昭和59年(1984年)2月25日、京都

府医師会館で45名の参加を得て設立総会が開催され京都府支部が正式に発足した。この時、日本臨床細胞学会名誉会長でもあられた故水野潤二先生が「細胞診断学の四半世紀をふりかえる」という記念講演をされたが、それから次の四半世紀が経過したことになる。支部の黎明期、創成期、発展期に関わられたこれら多くの方々の方々の労を多とし、京都府支部の歴史に長くとどめたい。さて初代支部長故安田迪之先生が3期9年、小畑 義2代目支部長が2期6年務められた後、土橋康成が3代目支部長となり、それまでに築かれた京都府支部の土台の上に、組織および運営の改革に取り組んだ。これは当時100数十名規模となった支部



平成23年6月25日
 第5回京都細胞診ワークショップ
 場所：京都保健衛生専門学校
 樋口觀世子先生の甲状腺の検鏡実習の写真



平成23年7月17日
 第28回日本臨床細胞学会京都府支部学術集会
 場所：京都大学百年時計台記念館 国際交流ホール
 谷田部 恭先生の講演の写真



平成23年12月18日
 第13回教育研修会
 場所：ホテル京阪京都にて
 南雲サチ子先生の講演の写真



平成23年12月18日
 ホテル京阪京都にて
 細胞学会貢献賞受賞祝賀会の写真

にふさわしい新しい運営形態の模索の営みであったといえよう。結果、会員全員参加を目指して3つの委員会、すなわち教育委員会、学術委員会、精度管理委員会が立ち上げられ、それぞれの委員会が年1回の集会を責任担当するというユニークなかたちでの充実した支部活動が達成された。今日ではこれら3つの委員会を束ねて統括指導する庶務・企画委員会も活動し、分担と連携を標語に、他府県に比類のない円滑な支部活動が行われている。これら委員会活動の多くはインターネットメールを通じて行われており、極めて高いレベルでの情報共有が達成され、支部会員相互の今日の信頼の醸成に繋がっていることは間違いない。また検査士と専門医の2つの部会組織も支部に位置付けられ、それぞれの部会活動も活発となりつつ

ある。土橋康成前支部長は4期12年を務めて退任。その後、平成23年4月1日から中泉明彦現支部長が就任した。現在、会員数245名(専門医44名、検査士196名)の陣容となり、中泉新支部長のもと、三上芳喜専門医部会長、三宅秀一検査士部会長がそれぞれに指導性を発揮し、全国へ、そして世界へ発信できる高いレベルの支部活動を目指して各種の取り組みが行われている。事務局は京都大学附属病院病理部に置かれ、白波瀬浩幸事務局長が取り纏めを担っている。次なる四半世紀に支部活動が発展的であるためにはベテランから若手へと支部の知恵と精神が円満に受け継がれ、そして若手が十分に活躍できる環境を整えておくことが重要と思われる。